

番組審議会

第10回 BS よしもと番組審議会

■開催年月日 : 2024年5月16日(木)

■開催場所 : BS よしもと株式会社 会議室

■出席した委員(敬称略)7名中6名出席 *あいうえお順

大原鶴美 (プロフェッショナル コミュニケーションスキル マスター・トレーナー)

川上和久 (麗澤大学教授)

久保博 (一般財団法人 日本スポーツ推進機構(NSPO) 理事)

品田英明 (元 味の素 AGF 株式会社代表取締役社長)

竹中ナミ(ナミねえ) (社会福祉法人プロップ・ステーション理事長) *リモート参加

山田奈美香(山田・尾崎法律事務所 弁護士)

■議題

- 1.開会の辞(審議委員長)
- 2.開会の挨拶(稲垣社長)
- 3.編成関連の報告(4月改編他 編成動向、ジャンル種別・比率報告)
- 4.視聴者からの反応の共有(コールセンターレポートより)
- 5.番組審議
対象番組:『東野山里のインプット』
 - ①2023年11月19日放送 #9
 - ②2024年1月21日放送 #13
 - ③2024年3月31日放送 #18
- 6.閉会の挨拶(泉副社長)
- 7.閉会の辞(審議委員長)
- 8.事務局からの連絡

川上審議委員長による開会の辞に続き、社長 稲垣より、今回で第10回という節目を迎え、これまでに積み上げてきたものが少しずつ実になっており、前回質問を受けたCM・通販等の営業的な側面、また視聴者数においても前進していることを報告し、審議会をスタートした。

■審議の経過の概要等

1.編成関連の報告

専務取締役兼編成制作局長より、4月改編他 編成動向について、以下のポイントについて説明を行い、理解された。

① 開局3年目を迎えた3月を『開局月間』と位置づけ、特別編成を実施。

BS よしもとのトップクラスの人気番組である、「吉本新喜劇」を3月18日から3月24日まで『新喜劇週間』として1週間にわたり特別編成を実施。

更に、『春のお笑いスペシャル 2024』として3月30(土)には、「岡村隆史の花の駐在さん 東京へ行く」を、3月31(日)には「華大どんたく ～愛と人脈の総力戦!これを見たらあなたもタニマチ SP」を特別番組として放送。高い視聴量を獲得し、YouTube 配信も好調で局の認知度アップに貢献。

②4月改編については、一層の収益増加を目的とした、視聴者の流れを改善するための番組枠の移動を実施。尚、7月には更なる大幅な改編を計画中。

続いて、編成運行責任者より、昨年10月から本年3月までのジャンル種別・比率報告を放送実績データを基に行い、CM 放送時間総量の設定基準が基準内に保たれていることを含め、全審議委員に確認された。

2.視聴者からの反応の共有（コールセンターレポートより）

考査部より、1月～4月中にコールセンターに寄せられた視聴者からの意見についてのサマリーを報告し、全審議委員に理解された。

審議委員からは、コールセンターに寄せられる件数について質問があり、考査担当と編成局長より、過去に存在した新規局と比較しては同等数と思われること、番組の内容や出演者によりレスポンス数が大きく変動するため、視聴量とは一概に比例しない傾向であることが説明され、理解された。

3. 番組審議

対象番組：『東野山里のインプット』

①2023年11月19日放送 #9 「将棋」 ランバンプス 寺内ゆうき

②2024年1月21日放送 #13 「NBA」 麒麟 田村

③2024年3月31日放送 #18 「古事記」 ガクテンソク 奥田

初めに、マネージメント&プロデュース4部の番組プロデューサーから番組概要についての説明を行い、続いて審議委員長により進行し、各審議委員から寄せられた質問については番組プロデューサーが応答する形式で番組審議を進行した。

①各審議委員からは、以下のような意見が寄せられた。

- ・吉本ならではの番組企画として素晴らしい。
- ・MCの東野幸治、山里亮太 両氏の話術に安定感があり、安心して見ることができる。芸人がプレゼンテーションする話題への興味の示し方、盛り上げ方が素晴らしい。また、本編のテーマとは異なる、2人のオープニング・トークも良い。
- ・プレゼンテーションする各芸人の技量と熱心さに吉本芸人の幅が感じられ、彼らによって番組の内容に教養番組としてのクオリティと深みが加えられている。
- ・MCが覗き込むスマートフォンの映像を視聴者にも見せて欲しいという気持ちもあるが、逆に芸人の話術により想像力をかきたてられ、そこがBSよしもとならではの特徴となっておりこのスタイルが良い。
- ・話題に専門用語が続く場合には、テロップなどで補足説明があるとよりわかりやすい。
- ・若手やこれから芸人を目指す若者たちに、一芸を磨き秀でることで、ステップアップのチャンスが巡ってくる可能性を示す、良き教育的モデルとなっている。
- ・地上波の番組でも見られるスタイルではあるが、1つのテーマを30分番組として絞っていることで見やすく入り込みやすい。

また、審議委員からは、プレゼンテーションする芸人のキャスティングと企画番組構成の過程についての質問が寄せられた。

②これらの意見と質問に対し、番組プロデューサーより、以下のような説明と回答を行い、理解された。

- ・番組構成とキャスティングの過程については、先ず放送時期に合わせてテーマを考え、そのテーマを語れる芸人を探すケースと、自薦の芸人から聴取を行うケース、MCが興味を持つテーマを取り上げるケースなどまちまちである。

YouTube 動画の放送権利をクリアする労力が番組構成の制約にならないように、動画の内容は直接放送せず、話芸で説明してもらい、補足が必要な場合には各芸人に用意してもらうスタイルをとっており、今後もこの方法を継続していきたい。

キャスティングに関しては、地上波出演の経験の無い若手にチャンスを与えつつ、知名度のある芸人を挟むという配慮を行っている。

また、営業的な引き合いもきているので、制作資源に還元しつつも営業色が出過ぎないようにも配慮していきたい。

4.閉会の挨拶

最後に事務局より次回の開催時期を確認後、泉副社長により、地方創生活動の実績の近況報告として、埼玉県の訪問看護ステーション設立の事例が報告された後、審議委員長の閉会の辞をもって審議会を閉会した。

■現在のBSよしもと審議会委員（敬称略）

※2024年5月現在

川上和久（委員長／麗澤大学教授）

大原鶴美（副委員長／プロフェッショナル コミュニケーションスキル マスター・トレーナー）

久保博（一般財団法人 日本スポーツ推進機構（NSPO）理事）

品田英明（元 味の素 AGF 株式会社代表取締役社長）

清水義次（建築・都市・地域再生プロデューサー/株式会社アフタヌーンソサエティ代表取締役）

竹中ナミ（ナミねえ）（社会福祉法人プロップ・ステーション理事長）

山田奈美香（山田・尾崎法律事務所 弁護士）

以上